



災害から世界中の人々を守るために国連が定めた「仙台防災枠組」に、優先的に取り組むべき行動として「災害リスクを理解する」という項目があります。この災害リスクは「ハザード」「暴露」「脆弱性」の三つの要素によって決まります。ハザードとは地震や津波、洪水、高潮、土砂崩れなど、人や社会に被害を与える可能性のある自

然現象のことで、暴露とはハザードの影響を受ける場所に人や物が存在することです。脆弱性とはハザードの影響に対する弱さのことです。これら三つの要素をかけ算すると、災害リスクが決まります。例えば、海の近くにある学校の場合、「津波」×「浸水エリア」×「訓練の不足」のかけ算で災害リスクの大きさが決ま

ります。かけ算の答えは、小さい要素とかけることできまじりますが、津波が到達する前に浸水エリアから離れることや、津波を想定した避難訓練を繰り返すことでリスクを減ら

宮城県には、海溝型や直下型の地震を引き起こす活断層が存在します。ハザードは完全に無くないものの、危険な場所から離れることで暴露を避けられますし、「建物の耐震性が不足している」「停電や断水の恐れがある」「津波に気付

くのが遅れる」といった脆弱性は、日頃の対策や訓練で小さくしていけます。自分の行動が命や暮らしを守り、地域の災害リスクや損失を大幅に減らす鍵となることを、常に心に留めておくことが大切です。来月12日はみやぎ県民防災の日です。まずは、自分や家族が抱える災害リスクを考え、い

### 災害リスク軽減のために

# 3要素のかけ算で考える



はやさかアドバイザーの

## 学ぼう防災

26

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

**災害リスクはかけ算で考えよう**

ハザード (自然現象)	暴露 (場所)	脆弱性 (影響の受けやすさ)
地震 × 揺れる場所にいる・ある	家具固定の未実施 住宅の耐震不足	災害リスク
津波 × 浸水想定エリアにいる・ある	避難訓練の不足 避難の遅れ	
大雨 × 浸水想定エリアにいる・ある	気象情報の確認不足 避難計画の未作成	

ハザードマップを確認しておこう  
対策をすればリスクが小さくなるよ

**子ども部屋にしまふ地震のリスクを考えよう**

- 本棚が倒れないようにするにはどうしたらいいかな？
- 本棚の上に重い物を置いておくと落ちてくる恐れがあるね
- 部屋が散らかっていると逃げるときに邪魔だね
- 窓ガラスは割れないように飛散防止の対策をしよう

イラスト さとうあけみ

**この日 何の日**

◇30日(金) 海洋環境保全推進月間スタート  
海上保安庁などが海洋環境保全に向けて指導、啓発活動を強化します。スローガンは「未来に残そう青い海」。海事・漁業関係者、マリンレジャーに親しむ人らを対象に講習会などが開かれます。6月30日まで。

**きょうの紙面**

- 2面 ニコ☆プチ
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 Let's try 防災クッキング
- 8面 投稿特集